

前回の部会における委員からのご意見

○議論の対象や前提について

- ・山林地の土地政策にかかわる課題が触れられていない。人口減少社会において山林地をどういう地域として捉えていくべきなのかというのは大きな検討課題。
- ・人口減少に対応する形で土地利用を集約していく上でのタイムスケールを示してほしい。人口減少社会というときに、どのような人口動態を考えていくべきか。

○土地政策の方向性について

- ・具体的な施策を推進していくためにも土地政策の大原則を打ち出すべきで、例えば利用が所有に優先するといったものが考えられないか。
- ・産業構造の転換に対してどう働きかけていくのか、雇用をどう生み出していくのかという視点が大事。

○賢い土地利用について

- ・「賢い」ということについて分解して考えると、どのような要素に分けて考えられるか整理してほしい。民間ベースと公共ベースでは違いがあるのではないか。
- ・地価の下落により、土地の需要と供給が均衡していくはずだが、市場メカニズムが働かない部分がこれから出てくる。税制や計画制度、規制等により、どこまで政策的に「賢い土地利用」へ誘導していくべきか。

○施策のあり方について

- ・税制や都市計画が人口増加を前提とした中でつくられたものが残っており、人口減少や災害に備えていく必要がある今の時代にあつた形で税制等のあり方を変えていくことが必要。
- ・施策の効果がどうなっていくのかチェックできるような体制を継続していくことが必要。

○土地利用調整について

- ・土地利用基本計画は地域の追認というような形にとどまっており、都市地域、農業地域、森林地域など重複している地域も多いが、あまり抜本的な対策がとられてきていない。
- ・物流施設の適地に対する土地需要が増大しているが、どこに利用可能な土地があるかわからない。実際に開発したいと思っても、行政に相談すると時間がかかり、開発を断念するケースがあるので、民間の活力を活かす面から改善してほしい。

○安全な土地利用について

- ・「コンパクト＋ネットワーク」は防災の観点からも重要だが、進めていくためのモデルとなる地域がない。

- ・一人暮らしの方が多くなっている中で、コミュニティや全体で防災力を高めるような提案があってもよいのではないか。
- ・小学校区を生涯の自分のエリアとして暮らしている人が4割といった調査がある中で、移動を一律に勧める以外の施策も必要ではないか。

○土地・不動産関連のビックデータの活用について

- ・今あるデータをいかに活用するかという点に加え、土地政策の意思決定の高度化や投資の活性化、生産性の向上等のためにどのような情報が必要かという点についても議論をしていきたい。
- ・不動産証券化市場の取引はほとんどが信託受益権の売買という形で取引されているが、現実にとどれくらい取引されているか分からないので、データとして把握できるようにならないか。

○土地・不動産のプロフェッショナルの活用について

- ・空家対策特措法成立後、空き家に対する関心は高まっていることから、民間の力を活用し、空き家対策を進める施策を講じてほしい。
- ・不動産証券化の意義は素人では有効活用できない土地を専門家が入り込むことで有効活用できるところにある。
- ・地籍整備は土地政策の情報インフラに相当するものであり、今回の論点設定における地籍整備の位置づけを再検討してほしい。
- ・不動産鑑定士は価格を出す専門家と見られがちで、不動産全体に対して専門性を有しているにもかかわらず、その知識が有効に活用できていないのではないか。

○その他

- ・外国人の不動産取得の状況について説明資料を追加してほしい。
- ・クオリティインフラの1つとして土地政策を位置づけ、政策を支えるスキーム、データ、スキル、人材などを備えていくべき。